

令和元年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

令和2

令和2年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成30年度事業成果と今後の課題	令和元年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	令和元年度中の進捗状況①	令和元年度の取組み結果
1 ふくしを支える人づくり					
(1) 「ふくしの風土づくり」の基盤をつくる					
子どもから高齢者まで幅広くあいさつ・声かけ運動の促進に努め、ふくしの心を育みます。					
●小学校・中学校と協力して「あいさつ月間」を設けるなどのキャンペーンを展開し、民生委員・児童委員や集落の区長などと連携して人から人へのあいさつ運動の広がりを促します。	荒井／本田	「あいさつ月間」等のキャンペーンは学校で行われている。 現状のまま学校の主体で行ってもらう。	学校主体で行ってもらい、社協の取り組みとしては行わない。	同左	同左
地域における人と人のつながりを生みだすため、地域内の清掃活動へ協力します。					
●さわやかクリーンサポートの登録団体等と連携し、地域住民と一緒に活動できるイベント等の企画を検討します。	荒井／駒澤	海岸清掃について、計画から実行までの期間が短く計画性が課題。団体主体とのことなので、仕方ない面がある。	団体主体で行ってもらい、社協の取り組みとしては行わない。	同左	同左
(2) 「ふくしの風土づくり」の担い手を育む					
地域や学校におけるボランティアなどの体験学習、福祉教育を行います。					
●新たに保育・幼児教育施設における福祉教育として、施設訪問による交流など小さい子どものための福祉理解を関係者等と検討します。	本田／吉田	各園ごとに毎年、各施設等と相談し実施している。特別設定しなくとも、近くに散歩に来たのでおじゃまさせていただきますと何気なくの交流も増えてきたので、引き続き支援していきたい。	各園ごとに近くにある福祉施設等と交流を実施。実際に出向く活動が軸となりましたが、日々の活動での作品を交換し展示し合ったり、プレゼント交換をしたりと、小さい時から特別感なくいろいろな出会いのカタチを、関係者同士でその時々相談し今年度も実施予定。	同左	今年度は子ども園の子どもたちが、高齢者施設におじゃまし、日ごろ練習している歌のプレゼントをしたり、肩をもんであげたり等の交流を実施。
●小・中学校においては、学習の内容を充実させるために、ニーズの把握と新たな学習方法の情報の収集と企画提案を行います。	荒井／宮下三	日程や調整が必要なため、早めに動きたいが、なかなかできなかった。30年度同様で31年度で、きちんと引き継ぎたい。	小学校への福祉教育担当者へつないでもらう。 中学生には先生を通じて、学校の様子を参考にして、ボランティアスピリッツを通じて提案する予定。	中学生については、9月25日(水)ボランティアスピリッツの最後の施設等で10件のボランティア体験をする。そのため、5/23、5/30、6/21、7/11、7/18と講師の講話やビデオでボランティアを学んでもらい、9/12最終打合せ予定	9月25日各施設でボランティアスピリッツ体験学習を行った。感想を見ていると様々な視点があり、一人一人の成長につながったと感じている。 今後も中学校との連携が必要である。
体験活動の機会を「意図的」・「計画的」に継続していきます。					
●ボランティア活動の紹介や活動事例集などの作成により周知し、「見守りボランティア」等の体験による新たな担い手を発掘していきます。	荒井／宮下三	見守りボランティアに結びつくよう、新潟市の茶の間に見学に伺った。居場所づくりや見守りボランティアにつながるようにしたい。	新たな担い手を発掘し、見守りボランティアにつながるよう、お茶の間ツアーを6月と8月に2か所を訪問予定。	6月3日に地域の茶の間「うちの実家」へ見学に行き15名の参加。8月20日に地域の茶の間「あいあい」へ見学12名参加した。	6月3日に地域の茶の間「うちの実家」へ見学に行き15名の参加。8月20日に地域の茶の間「あいあい」へ見学へ参加してもらい、少しでも担い手のつながってほしい。
●ボランティアの体験から継続して活動できるように、年間を通して体験を積み重ねることができるプランを年代別や内容別にボランティア団体、事業者等と協働して、企画・検討します。	荒井／宮下三	老人福祉施設等のニーズを知ることができた。次年度以降も続けていきたい。福祉施設等へもボランティアさんを派遣することができた。今後も様々な団体とつながるようになりたい。	JSCの高校生を対象とした総合学習の時間で、社協が窓口となり老人関係施設等へ福祉教育としてボランティア活動体験してもらう予定。 ※JSCは、ジャパンサッカーカレッジの略	JSCの高校生を対象とした総合学習の時間で、社協が窓口となり老人関係施設等へ福祉教育としてボランティア活動体験してもらう。5月にJSCの先生と老人福祉関係者が打合せを行い、9月9日振り返りを行う予定	9月10日に5施設の担当者とJSCの担当教師と振り返りを行った。学生は多くの気づきを得ているし、迎え入れる施設にも良い影響があった。 今後も事業継続していきたい。

令和元年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

令和2

令和2年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成30年度事業成果と今後の課題	令和元年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	令和元年度中の進捗状況①	令和元年度の取組み結果
子どもや大人、障がいの有無に関係なく福祉や地域に関心を持ってもらえるよう、交流や社会参加を促進するなどイベントを通して啓発活動を行います。					
●集落単位や各種団体などの参加により作品や情報の展示、活動の発表、体験など人とつながるための地域行事やイベントの開催を検討します。	本田／杉の子	毎年、11月3日の町の文化祭に杉の子の家全体として保護者の力もお借りし参加。日々、作業で作っている商品の販売や当日行われているイベントにも参加している。今後も継続していきたい。	行政、各企業や団体からも一緒に活動と声をかけてもらうことが多くなった。今後もメンバーさんがさまざまな方と一緒に活動することで、広く「人間理解」につながるよう、積極的に参加していきたい。	5月ー町商工会・ライオンズクラブ合同のプラントナーの花植え・6月ー図書館5周年記念イベントに参加・7月ー東港開港150周年記念イベント参加等	同左
生涯学習と連携し、福祉について学ぶ機会を提供・支援します。					
●町の社会教育課と協働し合同の研修会を企画、検討します。	佐藤	社会教育課がどんな事しているのかを情報収集する事はできたが、担当者となら具体的な協働の打ち合わせをする事ができなかった。今後は担当者との連絡をとり、企画を進めていく。	今年度中に社会教育課担当者との打ち合わせを行い、実際に行われている研修に参加し、体験してみる。その上でどのような連携が考えられるか企画、検討していく。	担当者との連絡がとれていないので早急に連絡をとりたい。	実施できていない。
集落などの小地域や企業において、福祉教育の機会を設けることができるようにチラシ、資料等を作成し、講座などの開催や活動参加を促します。					
●集落などの小地域や企業において、福祉教育の機会を設けることができるようにチラシ、資料等を作成し、講座などの開催や活動参加を促します。	荒井	地域に入って講座等を開催することはできなかった。企業については、下段で実施したアンケートを基に組み立てを考える。	福祉Newもん事業として、福祉教育のきっかけづくりとして、今年度限りの再チャレンジを行う。 3月までに寸劇を通じ福祉教育を行う。	集落等にお邪魔して、講座ではなく寸劇を通して福祉のきっかけとなるようにする。3月までに寸劇を通じ福祉教育を行う。	今年度、後見、日自についての寸劇をサロン利用者に向けて3回行った。制度の理解にもつながり、楽しみながら学べていると思う。
●企業などに働きかけ、地域行事や社会貢献の促進を図ります。	佐藤	まずは、企業にむけて社会貢献のニーズを確認することから始めたが、アンケートの回収率が悪かった。Web形式がいけなかったのか、忙しい時期だったのか難しいところである。Web形式の場合、セキュリティの絡みがあり、答えていけない場合もあった。記述式の方がよかったのかもしれない。	企業が取り組んでいる地域行事や社会貢献活動にはどんな事があるのかを確認し、社協として連携できる部分を模索する。	企業などに具体的に連絡をとってはいない。今年度中にできるだけ多くの企業に連絡をとり、一緒にできることを考えたい。	共同募金のお礼に社協の事業をお知らせするPRを送付させていただいた。何かしらのコンタクトがいただけるように今後も継続したい。
社協においては福祉教育担当者を養成します。					
●地域福祉活動の中核を担う人材を養成するため、職員の資質向上、スキルアップを目指した研修会等を実施します。	荒井	30年度は取り組むことができなかった。地域福祉に関する外部研修へ積極的な参加を促す。	地域福祉等に関する研修会に参加しスキルアップを目指す。	10月11日、新潟県社会福祉協議会主催による福祉教育推進セミナーに参加し、福祉教育を推進する実践力を身に着ける。	3月開催の研修会は全て中止になりましたが、今後も必要な研修があればスキルアップに努めたい。

令和元年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

令和2年3月31日現在

取り組み内容	事務局等担当者	平成30年度事業成果と今後の課題	令和元年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	令和元年度中の進捗状況①	令和元年度の取り組み結果
(3)「ふくしの風土づくり」の担い手を支援する					
多くの町民がボランティア活動に参加できるよう、ボランティアの担い手の育成に努めます。					
●ボランティア団体などと協力し、初めてのボランティアの「お試し活動」(体験講座)を開催してボランティア活動へのきっかけを提供します。	荒井/宮下ミ	30年度の研修参加者のうち新たにボランティア協力できる方にも巡り合えた。今年度も地道に掘り起こしていきたい。	社会福祉士の実習生とつながったことから、大学生を主体とし24時間テレビのチャリティー募金のボランティアを行う予定。7月ボランティア顔合わせ趣旨説明 8月25日10時～17時プラント4にて実施予定	実践として、8月デイサービスへのブドウ狩り同行ボランティアも大学生とつながり、始めて活動いただいた。研修としては、3月をめどにボランティア講座「初級編」研修会を実施予定	ボランティア初級講座はコロナウイルスのため中止となる。町デイサービスセンターぶどう狩り・クリスマス会・買い物ボランティア。はずがた園夏祭りボランティアに参加してもらった。ボランティアのニーズと活動をつなげた。
地域における福祉活動を活性化するための、地域の核となるボランティアリーダーの育成に努めます。					
●地域団体活動の充実のため、地域のニーズに応じた人材育成の講座や研修会を検討します。	荒井/宮下ミ	次年度以降組織内で相談のうえ検討したい。	給食サービスに係る方々を対象に研修会を開催する予定	11月～12月の間で研修会を実施予定	3月に開催予定だったが新型コロナウイルスの関係で開催できず。次年度は早い時期に開催したい。
●それぞれのボランティア団体の代表や核となる人材に対して、リーダー育成講座や先進地視察などの機会を検討します。	荒井/宮下ミ	次年度以降組織内で相談のうえ検討したい。	リーダー育成を養成する研修は今年度企画していない。	同左	リーダー研修は企画していない。
地域における福祉の芽が育まれるよう受け手と担い手をつなぐ仕組みづくりを進めます。					
●活動を希望する団体等と支援を必要とする人、双方のニーズを把握するため、相談機関や活動者等の情報収集を進めます。	宮下ミ/佐藤	地域に出向き、どのような団体があるのかを把握していく。支援できる人、支援してほしい内容を把握するために、積極的に地域に出向く。現在把握している町内施設のニーズとして①ウエス不足②行事の時のボランティア不足 住民の力と課題をつなげていきたい。	①定期的なウエス作りの機会を作り住民に参加してもらう ②各施設でボランティアが必要な事業があれば、声かけをしてもらい、チラシ作成し敬和大学ボランティアセンター・サッカーカレッジに啓発する	①8月22日に第1回目のウエス切り実施。ボランティア12名参加。このくらいのボランティア活動であればできると感想をいただき、第2回目を11月18日に実施予定 ②町デイサービスの買い物ボランティア・ブドウ狩りボランティアで敬和大学・サッカーカレッジの学生に協力いただいた	町内のボランティアニーズの把握を行うために、町内施設や体操教室を訪問した。 ①ウエス作りは3回実施。1回目8月22日 12名 2回目11月18日 15名 3回目 2月17日 21名の参加で徐々にボランティアが増えている。 ②町内施設のニーズを把握し学生ボランティア・住民ボランティアと繋げた。
●社協だよりや広報に身近な福祉やボランティアの情報を掲載し、住民同士の身近な支えあいが福祉であることを広く町民へ知らせ、理解を広めます。	長谷川/広報委員	ボランティア活動の様子を掲載することができた。これからも活動の様子や参加案内を多く掲載していきたい	広報委員で情報を相談しながら、こまめに活動の様子、参加案内の情報を発信していきたい	ボランティアの活動や募集を毎回掲載し、情報を発信している。	同左
ボランティアセンター的な機能を強化し、ボランティアコーディネーターの配置、育成を検討します。					
●ボランティア団体間の連携や支援を受ける側と支援する側の調整などを行い、活動しやすい環境づくりに努め、支援等を行うボランティアコーディネーターの配置を進めます。	完了				

令和元年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

令和2年

令和2年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成30年度事業成果と今後の課題	令和元年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	令和元年度中の進捗状況①	令和元年度の取組み結果
2 人がつながる場づくり					
身近な場所で気軽に参加することができる、多様な出会いの場を支援し、より多くの「※地域のお茶の間カフェ」の創出を進めます。					
●お茶の間カフェは、町や関係機関と連携し空き家等の社会資源を活用して、小地域の人たちが楽しく集い、助けあう環境づくりの居場所として実現できるよう企画・検討します。	宮下ミ	昨年度2か所のお茶の間が開設した。今年度もお茶の間が広がるように、住民啓発を行っていく。	お茶の間を広めていくために、 ①お茶の間の見学ツアーを行い、多様なお茶の間があつていいことを知ってもらう ②ポラネットでのお茶の間の支えるボランティア取材し記事にする ③現在あるお茶の間のバックアップするために、顔を出して困りごとがないか確認する	①6月3日実家の茶の間紫竹、8月20日お茶の間あいあいに見学 ②10月のポラネットで掲載予定 ③何度か各お茶の間に顔を出している。介護保険の相談など受けることもあるがその都度窓口につなげる支援をしている。 ④新規に1か所お茶の間の開設予定(11月)区長宅チャラシのお願いなどに同行している	居場所作りとして、地域の茶の間が5か所開設した。立上げに関する相談や実施する上での困りごと等の相談を受けながら、継続していただけるよう支援を行った。 ポラネットで、地域の茶の間を取り上げたところ、地域の施設からお茶の間の参加希望がおりつなげることができた。
●お茶の間カフェの特徴としては、趣味の集まり、住民同士での楽しみ、井戸端会議、向こう三軒両隣の良さを取り入れるなど楽しい、助け合うとして今後の展開を促進します。	宮下ミ	お茶の間として社会福祉協議会に登録していない昔からある住民同士のお茶の間の発掘しいき、いろいろな人のつながりの機会があることを担当者が知る。	住民同士がつながる機会を知るために、色々な集まりに顔を出し、その集まりの特徴等を教えていただく。 ①町包括の体操教室に参加し集まりの機会を教えてください ②教えてもらった集まりにコンタクトをとり顔を出させてもらう	①地域の体操教室・老人クラブの集まりなどに積極的に参加している。	地域の体操教室・老人クラブの集まり・お茶の間の間に参加し、楽しく集まることの働きかけはできているが、助け合うことまでの発展はできていない。
ふれあい・いきいきサロンの活動の周知と活動の活性化に努めます。					
●社協だよりや広報へ、ふれあい・いきいきサロン活動を紹介するチラシや季刊誌的なものを作成するなどして、参加や活動の活性化を促します。	宮下ミ (広報委員)	社会福祉協議会の事業を広報せいらう・社会福祉協議会だよりを活用し、紹介していく。	お茶の間の啓発を行うために集落に向けたチラシを作成し、住民にお茶の間の存在を知ってもらう。 ①亀塚みんなの会一年間計画作成し亀塚集落に区長を通じて配布 ②山大夫茶話会一毎月開催のお茶の間のチラシを役員と相談し作成し区長を通じて配布 ③寄り合いはまな→3月再開時、記事作成し区長を通じて配布 ④はすがたお茶の間→3月再開の日程表作成・7月に1年を迎えるので再紹介の記事作成し区長を通じて配布	同左実施している	お茶の間の啓発をその地域に対して実施した。各お茶の間によってチラシを毎月、年間表、イベント時等、作成し配布した。 お茶の間の新規立ち上げたところは、社協だより表紙に掲載した。 参加者の生の声を聴かせていただくために、参加した。
●ふれあい・いきいきサロンなどを通じて、支えて欲しい側も気がねなく支えて欲しいと言える地域づくりを進めます。	宮下ミ	お茶の間に顔を出すことで住民のニーズを聞かせてもらう。把握したニーズを関係機関・住民交えて考える機会を作っていく。	お茶の間に参加している人と話をすることで、課題を知り、解決に向けた働きかけをしていく。	顔を出すことで課題収集を行っている。	ごみ出しが大変、お茶の間の送迎が大変などのニーズ把握ができた。区長交えて相談したが、本人が地域住民に知られたくないという希望から中止となる。お互い様に助け合う地域作りが大切と実感する。

令和元年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

令和2年

令和2年3月31日現在

取り組み内容	事務局等担当者	平成30年度事業成果と今後の課題	令和元年度の取り組み予定 (何をいつまでにするのか具体的に)	令和元年度中の進捗状況①	令和元年度の取組み結果
ふれあい・いきいきサロンや交流会などが無い地域もあることから、講演会や座談会等を通して、ふれあい・いきいきサロンから始まる地域とのつながりや支えあい、助けあいが気軽にできる仕組みづくりを進めます。					
<p>●現在、ふれあい・いきいきサロンなどの事業に取り組む担い手が不足していることから、関係団体との連携体制を構築するとともに、地域のニーズを把握し、ふれあい・いきいきサロンの実施地区の拡大を図ります。</p>	宮下ミ	<p>30年度は、2か所(はすがた・山大夫)のお茶の間開設のお手伝いできた。令和元年度も1か所(亀塚)が立ち上げに意欲を持っていることがわかっているため、話し合いの機会を作り、立ち上げのお手伝いをしていく。お茶の間にとられず、人と人がつながる機会を作っていく。</p>	<p>①亀塚お茶の間の話し合いを4月に入ってから実施する。(行政も交えて)十分相談し、どのような会にするか見通しを立てられるように支援する ②新規開設したい集落(諏訪山・道賀新田)と話し合いを行い実施に向けた支援をする ③聖山大学などで講義の時間をいただき、繋がるのがなぜ必要なのかを伝えていく ④包括の運動教室に参加し、ニーズ把握を行う。 ⑤単位老人クラブの集まりに参加しつながる大切さを伝えていく</p>	<p>①亀塚お茶の間 みんなの会6月24日からスタート。その後も、参加することで様子を見ていく ②9月2日お茶の間の開設について住民の相談会に参加。11月から実施予定。10月に体操教室にてお茶の間の説明を行う予定 ③今年度も講義の時間をいただけるように担当者に依頼済 ④⑤同左実施中</p>	<p>①亀塚みんなの会5/27 本諏訪山・本大夫なかよし会11/4 道賀新田さくらサークル11/21 外畑11/21開始となる。新規お茶の間の開設する。 ②2月にひばりが丘がお茶の間の開設の相談を受ける。 ③聖山大学は今年度は講義の時間がなく実施できず。 ④包括体操教室・単位老人クラブの集まりに参加し、つながりの大切さを伝えた。</p>
<p>●ふれあい・いきいきサロンやお茶の間カフェの地域での必要性や影響、運営や設置などに関して、会議等の開催を企画・検討します。また、地区、集落においてチラシ等で希望を募り要望があれば出向いて情報を提供する機会を検討します。</p>	宮下ミ	<p>地域に向けて、お茶の間の楽しさを発信することを続けていく。社会福祉協議会の補助金制度を新しいお茶の間に伝えて活用希望があれば、手続きのお手伝いを行う。</p>	<p>集落・単位老人クラブ・体操教室に出向き、旗振り役の発掘とつながれる努力をしていく。</p>	<p>はまな・はすがたお茶の間は補助申請手続きのお手伝いを行った。山大夫茶話会、本大夫、本諏訪なかよし会には、説明実施済。</p>	<p>新規お茶の間には、助成制度の説明を行う。なかよし会は助成申請実施。お茶の間はすがた・なかよし会・はまなは助成申請行う。</p>
同じ境遇、悩みを持つ者同士がつながり、交流できるように活動を支援します。					
<p>●アンケート調査や各種団体等からニーズを把握し、直接当事者等の交流の場に向けて情報提供など支援していきます。</p>	本田/荒井	実施できず。	保健福祉課と合同で、障がい者手帳を保持している方対象に「地域生活拠点等を整備するための聞き取り調査」を実施予定。	同左	令和2年度より実施。そのための意見交換会や学習会を実施。
世代間交流など各種の研修会を企画実施します。					
<p>●“昔あそびと食事会”や“町の歴史を学ぶ会”など地域文化・生活と世代間の交流を合わせた会を町の社会教育課等と連携し、新たに企画・検討します。</p>	佐藤	<p>新たに昔遊びと食事会・町の歴史を学ぶ会を開催する事はできなかったが、既存の公民館まつりのつながりの継続や、社会教育課で行っている事業に社協としても連携しより良い事業としていきたい。</p>	<p>社会教育課で実施している昔遊びや町の歴史を学ぶ会等に参加し、連携を模索し、新たな形態での取り組みを模索したい。</p>	<p>社会教育課担当と連絡をとってないので今年中に連絡をとり、可能な限り昔遊びや歴史を学ぶ事をテーマにした会に参加したい。</p>	実施することができなかった。

令和元年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

令和2

令和2年3月31日現在

取り組み内容	事務局等 担当者	平成30年度事業成果と今後の課題	令和元年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	令和元年度中の進捗状況①	令和元年度の取り組み結果
<b>3 地域でともに支えあう仕組みづくり</b>					
ホームページを活用し、情報をわかりやすく提供します。					
●社協のホームページを開設するために企画・検討し、わかりやすい内容の情報提供に努めます。	完了				
●地域への関心を高めることや顔の見える関係づくりなどの事例をまとめ、それらの事例を共有できる仕組みづくりと事例活用に向けた取り組みを進めます。	長谷川 /広報委員	各部署のお知らせ等の更新が少なかったので、多く発信できるよう心掛ける	各部署の活動の様子を多く発信し、閲覧件数を増やしていきたい。	今のところ活用できていない。	社協の活動報告、ボランティア募集等、年度の後半に少し発信をすることができた。
社協の発行する広報等の活動内容の紹介や福祉情報の提供について、わかりやすい情報提供に努めます。					
●より多くの町民に情報発信ができるよう、身近な地域福祉活動の啓発や発信方法を検討します。	長谷川 /広報委員	年5回発行の広報で、町民の皆さんに情報の発信は出来ていると思う。内容についても、見やすい紙面を心掛けている。	令和元年度も広報委員で話し合いを行いながら、これまでと同様に町民の皆さんにわかりやすく情報を発信していく	町民の皆さんにわかりやすく、発信できていると思う	同左
●地域で支援を必要としている人に対する取り組みや紹介、周知を行うための方法について検討していきます。	長谷川 /広報委員	各部署担当と話し合いながら行えたと思う	令和元年度も広報委員で話し合いを行いながら、これまでと同様に町民の皆さんにわかりやすく情報を発信していく	地域での活動や、ボランティアの様子などを発信できている。	同左
●障がい者、高齢者、子どもなどそれぞれの状況に応じた紙面づくりや、必要な情報の提供の仕方をニーズに合わせて検討していきます。	長谷川 /広報委員	各部署担当を話し合いながら行えたと思う。町民の皆さんのニーズに合っているのかが見えない	令和元年度も広報委員で話し合いを行いながら、これまでと同様に町民の皆さんにわかりやすく情報を発信していく	担当で話し合いを行いながら、情報提供できている。	同左
地域ごとの支えあい・助けあいのための座談会を開催します。					
●地域ごとに町民が生活の困りごとや生活に望むことを話し合う機会の場合として、町の関係課や地域で活動している団体などと協働して座談会を開催し、生活課題の解決に向けた取り組みを支援します。	荒井	30年度は具体的に進めることはできなかった。	地域福祉計画と連動して取り組みたい。町の関係機関と協働していくことは必要だが、今はそこまで進められない。	今のところ進められていない。	今のところ進められていない。
●座談会を活用し、地域課題の把握を行うとともに、福祉活動への関心が高い地域から地域福祉の普及啓発や地域課題に合わせた活動を進めていきます。	荒井	30年度は具体的に進めることはできなかった。	地域福祉計画と連動して取り組みたい。座談会を活用して地域課題を把握するまでは進められていない。今のところ体操教室等で地域課題を伺っているところである。	今のところ進められていない。	今のところ進められていない。

令和元年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

令和2

令和2年3月31日現在

取り組み内容	事務局等担当者	平成30年度事業成果と今後の課題	令和元年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	令和元年度中の進捗状況①	令和元年度の取組み結果
地域でのネットワーク化を図り、相談機関や専門機関等と連携し、地域での見守り、支援体制の取り組みを進めます。					
●地域の町民一人ひとりが、地域において支援が必要な人に気づき、対応できるよう啓発を進めます。	宮下ミ	社会福祉協議会の地域福祉推進センターのチラシを作成し、住民に対して、役割を伝えた。今年度もチラシを活用し推進センターの役割を伝えていく。 民生委員・保健師・包括に対して日常生活自立支援事業・法人後見の啓発を行った。利用者希望が出た場合、迅速な対応をして、支援者のネットワークを社会福祉協議会の立場からも構築していく。	社会福祉協議会が支援できる日常生活自立支援事業を介護支援専門員に啓発していく。(令和元年11月までに)	昨年度、民生委員、包括、保健師対象に日常生活自立支援事業の説明を実施。今年度2件の相談があり、うち1件は日常生活自立支援事業を開始している。スタートした事例について専門職に連絡することで、日常生活自立支援事業の活動内容を理解してもらえようとしている。  パーソナルサポートセンターと共同し、ウェス切の活動を通して社会とのつながりの機会を持つ支援を実施(8月29日)今後も継続していく	介護支援専門員に対して日常生活自立支援事業と成年後見制度の説明を行った。今年度新規で4名の利用者となった。日常生活自立支援事業が地域で暮らすために必要な資源としての認識ができた。 パーソナルサポートセンターと協力し、ウェスづくり活動を通して、社会とのつながり作りを行っている。毎月1回実施しており、今後も継続していく。
●地域団体やボランティア団体などが見守り活動に参加できるよう活動内容や役割などの理解を求める取り組みを進めます。	宮下ミ	どんな見守り活動が必要なのか、どのような役割が必要なのかをまずは、社会福祉協議会が把握をする必要がある。それを把握したうえで、住民に対して、具体的に活動内容を伝えていく必要がある。	①町主催の医療連携会議に参加し、どのような街づくりをしていきたいのか、そのために社会福祉協議会として何をしていく必要があるのかを整理していく。  ②社会教育課主催の町づくり創生大学に参加し、住民と一緒に考える機会を持つ	①6月12日、8月6日の医療連携会議に参加し町としてどのような課題があるのかを協議している  ②7月24日の町づくり創生大学に参加した。今後も住民と一緒に考える機会を作っていく。  ③サッカーカレッジビジネス科の学生がインタビューに来てくれたつながりから、ボランティア活動の協力をいただく。	①医療連携会議に参加し、「住み慣れた聖籠町で地域との関わりを持ちながら共に尊重し合い、必要なサービスを受けて可能な限り自立した暮らしができる」という目標を立てた。実施するために具体的に何ができるのかを今後検討していく。  ②③町づくり創生大学に参加し、町の良さを生かした活性化を検討した。サッカーカレッジ学生とも一緒に検討することができた。
地域団体や企業等に対し組織の役割や活動内容などをPRできるよう支援します。					
●福祉施設や企業等に働きかけ、地域行事への協力やイベントなどの人材派遣など、地域貢献の促進に努めます。	佐藤	福祉施設を含む町内の企業側(事業所側)求めているものは何か知る必要がある。ボランティア活動や共同募金等の関わりの中でニーズ調査していく。	昨年度実施したアンケート調査を元に社協としての働きかけを検討していきたい。	今年度中に昨年度実施したアンケート調査の中で実施できそうな所から取り組んでいく。	取り組むことができなかった。
町民が気軽に利用できる相談窓口の設置を検討します。					
●町民と日常にかかわることで信頼関係を築き、一緒に地域力を高められるよう取り組みます。	佐藤	町民が気軽に相談できる場づくりについて、相談についての周知はできたが、「気軽さ」をアピールしたチラシや掲示物の作成までできなかった。	地域の茶の間やボランティア活動を通じて住民が気軽に相談できるような環境作りに努めたい。	地域の茶の間やボランティア活動には参加しているため、より広く相談窓口の設置の情報提供や、活動の場での相談しやすい環境作りに努める。	地域の茶の間やボランティア活動には参加しているため、相談窓口の設置にこだわることなくそこに集まる方々からの情報提供や、活動の場での相談しやすい環境作りに努める。
●相談場所や構造をプライバシーへ配慮して配置し、雰囲気づくりのために相談窓口の案内表示等を分かりやすく明るい表示に工夫し開かれた相談室を目指します。	佐藤	相談場所はプライバシーへ配慮されている。今後は相談しやすい雰囲気や環境作りが課題。	相談しやすい雰囲気作りやより良い相談窓口の案内表示を検討し工夫していきたい。	昨年度から進捗は今のところなし。	例年同様の対応としている。
●相談についての「気軽さ」をアピールしたチラシや掲示物を作成します。	佐藤	「気軽さ」をアピールしたチラシや掲示物の作成までできなかった。チラシや掲示物という形にこだわらず、「気軽さ」をアピールできれば良いと思う。	チラシや掲示物という形にこだわらず、「気軽さ」をアピールできれば良いと思う。また、相談者からは相談しづらいというような声は聴かれていない。	今年度中にできるだけ多くの町民とイベントやお茶の間、ボランティア活動の中でチラシや掲示物という形にこだわらず、「気軽さ」をアピールできれば良いと思う。	チラシ等の作成は行えなかった。

令和元年度聖籠町社会福祉協議会地域福祉活動計画進捗状況確認表

		令和2		令和2年3月31日現在	
取り組み内容	事務局等担当者	平成30年度事業成果と今後の課題	令和元年度の取り組み予定 (何をいつまでにどうするのか具体的に)	令和元年度中の進捗状況①	令和元年度の取り組み結果
地域に支援を必要としている人を発見し、相談支援機関等と連携して必要な支援に結びつけていく「ふくしの結（ゆい）づくり」支援体制に取り組みます。					
●各地区において多様化、複雑化する新たな福祉課題に対応するためボランティア等や相談支援機関、関係機関、町の関係課などで構成できるよう参加を呼びかけ、「支援ネットワーク会議（仮称）」を設置し、専門的に検討を進められるよう企画します。	荒井	関係機関だけでなく地域住民が参画することによって意味をなすが、対応できる地域住民やボランティアを見つけることも難しい。	多様化、複雑化する福祉課題は承知しているが、何をどこに向けて行くか、そもそも、ケースすら発見できていない。ネットワークの構築をただ作ればよいだけではないので、ニーズとセットで考える必要がある。今は、具体的に進むことができていない。	同左	具体的に進められなかった。
ボランティア団体等の福祉活動の報告会を開催し、地域全体に活動を普及していきます。					
●各ボランティア団体等が今後、活動を行い地域全体に活動の普及を図るため、活動の支援内容やその成果について、ボランティア団体や関係機関、集落の区長や民生委員・児童委員など、福祉活動の多様な担い手に向けての報告会の開催を検討します。	佐藤	ボランティア団体等の活動報告会は開催していないが、ボランティア運営委員会等で当該年度の活動報告と、今後の意見交換ができた。今後集落区長や民生委員・児童委員にも活動の周知を図りたい。	昨年度の活動に加え集落区長や民生委員・児童委員にも、集まりがある際に訪問し、周知を図りたい。	集落区長や民生委員・児童委員に対し具体的な周知はしていないが、今年度中に区長会や民生委員・児童委員協議会の会議のスケジュールを確認しながら周知を図る。	ボランティア研修の内容や社協の事業を民生委員の定例会などでお伝えしている。
援護者名簿、安否確認の方法などの支援体制づくりと周知を図ります。					
●援護者福祉マップづくりの支援等を通じて、町民が地区について理解を深めることへの支援を行います。	荒井	予算を獲得できたので、専門の講師を依頼する	12月にマップづくりの講師、木原先生に講義いただき、その中から興味を持った方々を探す。	9月頃を目途にチラシを作成する。	12月に木原先生をお招きして館集会を開催した。20名ほどの参加であった。もう少し多く集客できたらと思う。来年度も多くの町民に参加いただけるように開催したい。
●小地域において、プライバシーに配慮しながら、集落の区長や民生委員・児童委員、町保健福祉課と協力して、援護者マップを作成し、安否確認方法などをマニュアル化する。また、地域内の町民との安否確認方法のマニュアルや援護者名などの情報の共有化についてルールや情報管理等を検討します。	荒井	同上	同上	同上	同上
災害時の助け合いを推進するため、災害研修・災害ボランティア研修を行います。					
●ボランティア団体、地区、集落のリーダー等に向け、災害研修、災害ボランティア研修を実施し、広く災害時の対応等の情報が普及するよう支援します。	佐藤	災害時のボランティア活動研修を実施したが参加者数が芳しくなかった。広く災害時の対応等の情報が普及するよう実施日や研修内容等について検討が必要。	今年度は災害研修の予算づけができなかったが、行政の町なか防災訓練とも連携し、実施できないか検討する。	今年度は災害研修の予算づけができなかったが、行政の町なか防災訓練とも連携し、実施できないか検討する。	今年度は災害研修の予算づけができなかったが、町の防災訓練時に保健福祉センターでテントを建て災害ボランティアセンターを設置した。
社協内において計画推進会議を開催します。					
●社協の職員が計画推進会議に参加し、活動計画の内容、取り組み状況や取り組み結果を共有することで、計画の推進力を高めていきます。	荒井	H30.4.1 地域福祉推進センターを設置し、計画の推進や進捗管理は同センターで一元的に進めることとした。このため、「推進会議」の必要性等については改めて検討したい。	9月に取り組み予定と進捗の共有を設ける。 3月に取り組み後の結果を共有する。	9月18日に中間の進捗情報を共有する。	3月の報告を行った後、2次策定につながるよう評価シートの作成を行ってもらう。